

席書会で使用する写真の解説

10月15日（金）に行う席書会では、「空知らしい写真に言葉を毛筆で書き込む」作品制作を行います。その際に使用する写真についての解説です。

当日は、2種類の写真に揮毫してもらいますが、1枚は参加者全員が使用する共通写真、もう1枚は4種類の中からどれかが渡るという仕組みです。

まずは、どの写真が渡されても言葉が浮かぶように、写真を鑑賞して感動や印象を言葉にするよう早くから準備をしておきましょう。ただし、どうしても思い浮かばない場合は、「言葉例」を使用して構いません。

参加者全員が共通して使用する写真

タイトル:夕暮れの菜の花畑と満月

撮影者の言葉

日が暮れても一面の菜の花の黄色には存在感があり、気づけば満月も出ていました。

※言葉例

- 菜の花の海に お月様 ぽっかり
- 菜の花や 空の海を仰ぎ見る



4点からどれか一枚が渡る写真 A~D

写真 A

タイトル:雪原と冬木立

撮影者の言葉

氷点下の早朝、雲一つない空の日の光を雪原が反射していました。

※言葉例

- 冬木立 希望の光携えて
- 空気の粒 生命の粒 光る



写真 B

タイトル:池に映る夕日と秋空

撮影者の言葉

風一つない鏡のような池の水面に、暮れ行く夕陽が映っていました。

言葉例

- 水面に揺れる 大地の灯
- 去りゆく陽よ また明日



写真 C

タイトル:大地の架け橋

撮影者の言葉

秋の夕方、強い夕陽とともに途切れることのないきれいな虹がかかっていました。

※言葉例

- 空に轟け 空知野の息吹
- 雨の後には 虹が出る



写真 D

タイトル:青海に浮かぶ赤風船

撮影者の言葉

たまたま気球が近くに浮かんでいて、赤と青のコントラストがとてもきれいでした。

※言葉例

- 大地の光 空に輝く 鮮やかに
- 赤い風船 夢をのせて どこまでも

